

令和4年度「市民と議会の対話集会」記録

文教民生委員会

- 開催日時 令和4年11月4日（金）19：00～20：30
- 開催場所 苗木交流センター ホール
- 懇談先 市内12中学校PTA役員（各校2名×11校 計22名）
※坂下中学校 欠席
- 出席議員 文教民生委員
宮嶋寿明（委員長）、粥川茂和（副委員長）
勝 彰、木下律子、柘植貴敏、黒田ところ、吉村孝志
- 懇談テーマ 部活動の地域移行等について

■懇談内容

【現在の部活動・クラブ活動でお困りのことがら】

蛭川中学校

- ・個人競技については困っていると感じていないが、少子化で団体競技（野球、バレー等）が一つの学校でチームが作れない状況が数年前から続いている。現在は他の学校と一緒に試合をしている状況である。

福岡中学校

- ・人数が少ないため、合同のチームで行うが、新人戦でたまたまそのチームが優勝して東濃大会に出場することになった時、生徒には責任がないうえに、保護者からのクレームも出たことなどから、ルールの周知の問題があると思う。
- ・今までは先生が関わって指導してきたが、クラブに移行するうえで先生が指導に係わらなくなると、普段の子どもの様子やチームを強くする以外で先生とどうコミュニケーションを取っていくかが課題だと思う。

付知中学校

- ・団体競技では合同チームを組むことに大変苦勞している。
- ・合同チームでは他の学校の生徒とチームを組むので、とても少ない練習時間で大会に行くことになり、かわいそうだと思う。

加子母中学校

- ・生徒数の減少でこれまで活動してきた部活動の継続が困難となっている。野球、バレーボール、バスケットが廃部となり、現在は男女とも、剣道と卓球のどちらかに所属するか、校外のクラブ活動か、またはどちらにも属さないかしか選択肢がない状況で

ある。

- ・小規模校は選択できる幅が狭く、必ずしもやりたいこと、やってみたいことに取り組めないことや、家庭の状況により、中学校生活の中で運動や部活動に取り組むことができない生徒も現れ始めた。
- ・中学校時代に豊かに部活動に触れられる生徒とそうでない生徒で、生活体験や運動経験やチーム活動の経験等に差が生まれ、これが今後はどう影響するか心配である。

神坂中学校

- ・生徒数が少ないので、男子はバスケット、女子は卓球の1択のみで、どうしてもやらされている感がある。部活動の地域化では、みんなが選んだところで頑張れる部活動ができるようにしていただきたいと思う。

阿木中学校

- ・全員加入であっても、任意であっても、部活動とクラブでは目的がちがうため、しっかりすみ分けをしないと予算やいろんなことが問題となると思う。
- ・個人競技では個人で申し込んで大会に出られるかもしれないが、団体だと場合によっては中学校が申し込みをして参加していくことになる。中体連以外の大会は、まだ移行中ですみ分けができていないようで、すみ分けがしっかりできるとクラブとして出来るし、学校の顧問の先生の取り組みもしっかり変わってくるのではないかと考える。
- ・運動系中心であるが、高校に入ってから文化系やいろんな部活動もあるので、目的をしっかり再確認してどう改善していくかが大切だと思う。

落合中学校

- ・落合中学校では全校生徒91名、男子51名、女子40名、男子は野球・サッカー・テニス、女子は、バレー・卓球・テニスの部活動があるが、団体競技の野球とサッカーで人数が分散してどちらも単独での活動が難しい状況である。
- ・親としては、子どもたちに選択肢を持たせた中で、自分のやりたい部活をやってもらいたいと思う。
- ・野球部については数年前から、坂下中学校、苗木中学校、神坂中学校と合同で活動しており、サッカー部は令和2年、3年と坂本中学校と合同でチームを組んで中体連に参加、令和4年度はそこに麗澤瑞浪中学校が加わり練習している状況である。
- ・合同のチームではいろんな練習場所へ行かなくてはならないので、平日は送迎が難しいと保護者の意見が出ている。
- ・一番の問題は、地域指導者の確保が大変で、部活動よりもクラブ活動がこれからメインになってくるので、先生方も可能な限り、顔を出して指導してくれているが、やはり指導のメインは地域の方が主となっている状況である。
- ・現在全ての部活動で地域指導者の方が中心となり指導してみえるが、中には高齢の方もみえるので、この体制がいつまで維持できるかが問題だと感じる。

坂本中学校

- ・生徒の減少で単独チームが作れない状況である。

- ・地域移行と話を聞くが、どういう風に地域移行するか私たちのところへ情報がないので、この先どうしていくかを早めに教えてほしいと思う。
- ・教員の部活動の負担というが、負担と言われるとこちらとしては心外である。
- ・坂本中学校の部活動の現状は、週1回で30分程度、無い週もあるので部活動自体をなくしてもいいのではないかと思う。

苗木中学校

- ・団体競技では、チームを作るときどうしようか困るので、団体競技で合同チームを作るときのルールをつくり周知してもらいたい。
- ・指導者がいないクラブもあるため、指導者を紹介していただき、指導者と先生方が連携できるような体制づくりが必要だと思う。

第二中学校

- ・コーチの意見を聞いてきたので報告する。
 - ・地域に移行するというが、誰が地域を取りまとめるのか。
 - ・指導者を紹介してくれるのか。
 - ・地域に指導者がいなくなった時、やりたいといった子を誰が救ってくれるか。
 - ・学校側が料金を支払って、指導者を派遣型にするのか。
 - ・移行や委託に関して先生が全く出席されないのはどういうことか。
 - ・学校を通じて大会の参加申し込みなどをするが、地域が先生を飛ばしてコーチや監督に伝えることになるのか。また、そのスポーツに携わっていない先生が多くて、ほかのクラブチームから届いていることを聞く状態で、先生も用事が多くこちらから確認することなどが不満である。こういった体制が心配である。

第一中学校

- ・運動部の保護者会からは、だんだん部活とクラブの境目があやふやでわからなくなってきたという話がでてくる。
- ・クラブに属していないと試合に出してもらえないという話もあり、クラブと部活動の問題が難しくなっている。
- ・部活動に関しては、時間が短く、一日あたり1時間では、いっそやらないほうがいいのではと思う。毎日ではなく一日おきで時間を長くという提案もある。
- ・生徒にとっては、クラブ活動を頑張ってやらないと、部活動の試合も出られなくなるという心配が大きな負担となっている。
- ・運動部の中でも、メンバーで活動に温度差があるのではないかとコーチも感じている。
- ・子ども本人も親も、部活動やクラブ活動はほどほどでいいと考えている家庭もあれば、大会があれば絶対勝ちたいという家庭もあると思う。
- ・昔から、部活で仲間を思いやることや、目標に向かい頑張る結果を残すことなど、立ち向かっていく強い力を得るといった側面もあるが、このことは保護者の問題もあるし、子どもたちの意識もかわってくるので時間をかけて議論しないと、単純には解決できない問題をはらんでいると思う。

市議会議員

- ・教員は部活動で採用されているのではなく、教科で採用されている。
- ・部活動は確かに教員の負担ではあるが、子どもと教員のつながりで言えば部活動は大切であり、教室での授業や学級とは違った面で子供と触れ合うことを考えると、部活動は必要だと考える。ただ世の中の変化により、少子化で団体競技ができなくなってきているのが現状である。
- ・スポーツをやることも仲間と何か一つのことに取り組むことも、体験させる保障をしていくことは一番難しいかもしれないが、基本的には子どもにとってどういう形が一番いいのかを皆さんで知恵を出し合っていくしかなく、共通認識でもって中津川市の形を作っていくしかないと思う。

【今後の部活動・クラブ活動に期待されること】

第一中学校

- ・自分の頃にはなかった新しい部活動の在り方ができている。特に文化部、パソコン部など昔は暗いイメージだったが、部員が協力して勉強し、検定4級にほとんどみんな合格するなど、文化部でも部員全員で共有する目的ができていることや、部員全体で連帯意識をもって一つの目標に向かって学年を超えた結びつき、先輩が後輩に教えるなどの結びつきができるのではないかなと思う。
- ・やり方では、運動系も文化系も本質などでは変わらないと思う。時代とともに部活動の在り方も変わってきて、それに合わせて先生や保護者の支援の仕方も変わってくる様に感じる。
- ・部活動の特徴の一つである、違う学年の生徒と一緒に活動するという大きな内容でコミュニケーションを学ぶ場として、新しい絆を部活動で作ることができるのではないかな。
- ・先生の負担が若干多いと保護者も考えている。有料でもいいので、専門の外部講師に頼むことができればいいと思う。

第二中学校

- ・平日の練習がほとんどないため、学校の試合状況等を今後は保護者会長などに送ることも考えてほしい。
- ・市内全体でチーム作りをしていけばどうか。または、近距離の中学校同士でチームを作るのを認めていったらどうか。そうすることにより、中体連は無理かもしれないが、子どもたちはやりたい種目ができるのではないかなと思う。
- ・市のPTAの事務局が新しい指導者を紹介できる窓口があるといいと思う。

苗木中学校

- ・コロナの影響もあって、活動時間が少なくなっていることもあり、大会に出られ

ないことや練習が足りないこともある。部活動で足りないところは保護者やクラブ活動に頼っている現状である。部活動の活動費は、資源回収の収益から賄っているが、クラブ活動は会費によって活動しているため、今後クラブの活動費についても、市や地域の援助があったらいいのではないかと思う。そのほか、地域のつながりやコミュニケーションも含めて、申請や送迎は親の負担になっており、市や地域がワンボックスなどを出していただきたいと思う。

坂本中学校

- ・部活動の任意加入を今年からやって、加入・再加入が75%、未加入が25%で文化部が少なく、新しく部活動を作るのも教員対応やほかの問題もあり困難であることと、入らなかった子の行き場やケアが必要なのではないかと思う。
- ・任意加入で、部活動の種類にもよるが、負担する金額が全然違うため金銭徴収などPTA会費などからは出しにくいこともあるので、柔軟に活動できるように仕組みを考えることが必要だと思う。学校や教育委員会で対応していただけることを期待する。

落合中学校

- ・任意加入でクラブの人数も減っていくことも考えられるが、子どもたちには、これからも仲間との達成感、個人としての達成感を味わえる場所を与えてあげたいと思う。指導者の確保も今後問題になってくるものと思うが、皆さんと知恵を絞ってなにかいい方法をみつけていきたいと思う。

阿木中学校

- ・子どもたちは生き生きと活動できることが一番であり、学校の先生が参加することで安心感があると思う。
- ・いくつかの点が改善されることを期待し、高校からの書類の自慢できることの欄に、子どもが自信をもって書ける活動が継続できることを期待する。

神坂中学校

- ・選択の自由、子どもたちが自分のやりたいことができる部活動ができたらいと思う。

加子母中学校

- ・今後、校外クラブ活動が充実して生徒たちの選択肢が広がることを期待する。
- ・居住地と活動場所の距離が負担となると参加しないため、校外クラブ活動の場所についても、一定の配慮を与えれば、参加しようとする生徒も多くなるような気がする。
- ・生徒の経験値を広げ、様々なことを吸収し人間的にも大きく成長する時代の子どもたちに豊かな経験を与えることを期待し出来るだけたくさんの種目を作っていただきたいと思う。

付知中学校

- ・出来るだけ合同チームが前提で、多くの種目を選べる環境をつくり、挑戦したいことに挑戦できるような環境にしてあげたいと思う。

福岡中学校

- ・先生はクラブ活動の指導者と連携をとってほしいと思う。負担が増えるかもしれないが、生徒の様子を知ってその子をより理解できるのではないかと思う。
- ・小学生のジュニアクラブについても、連携を考えていきたいと思う。

蛭川中学校

- ・部活動は週2回から3回、今は下校時間の関係から全く行っておらず、部活動は無くてもいいのかなと思う。クラブ活動は任意での活動であるが、いずれにしても人数も少なくできていない状況なのでなんとかしていただけることを期待する。

市議会議員

- ・皆さんの出された意見はもっともな意見だと思う。今後の部活動については、考え方を変えなくてはいけないと思う。中体連も参加の仕方が変わっていくかもしれない。学校の進学の調書も変わっていくかもしれない。新しいものができてくると思っていたきたい。
- ・新しいものができてきて困ったときには、それぞれの学校で校長先生や体育の先生等と、自分の学校ではどういった形がいいのかを話し合っ、毎月開かれている校長会に出してもらい、検討委員会に反映させてもらおうといいと思う。学校の中心は、子どもと校長先生である。先ず自分の学校でいいと思う形を見つけ、校長先生から教育委員会へ話してもらうことが大事なことである。これからそれぞれの学校で新しく変わっていくこと、変えていかなければならないことは何かを勉強しながら、相談しながら、見つけていくといいと思う。そこから、中津川市独自のものができると思う。
- ・合同チームでの部活動は、活動できない子どもたちの活動の場が保障でき、中津川市の子どもたちのやりたいことを保障することにつながる。基本的にどういう形の組み合わせの合同チームがいいのか、考えてみるのが大事なことだと思う。
- ・現在のそれぞれの学校の部活動をクラブにするのか、今のままの部活動でいいのか新しい部活動にするのか考えていただき、検討委員会の結論を待ちたいと思う。
- ・皆さんの出された意見をまとめ、議会として教育委員会に伝えたいと思う。